

イチゴの病害防除を徹底しましょう

～うどんこ病、炭疽病

イチゴ栽培では、保温を開始すると施設内が病原菌の増殖に適した環境になるため、**保温開始前の病害虫防除を徹底**してください。

防除が手遅れになってしまうと、農薬を散布しても発生を抑えることが難しくなってしまいます。特に、**炭疽病は一度発生すると薬剤による治療効果が期待できません**ので、予防散布を心がけて防除を行って下さい。



図1 果実が発生したうどんこ病



図2 茎に発生したうどんこ病

図3 炭疽病による
クラウン断面
(褐色の変色腐敗)図4 炭疽病によるしおれ
(図 2,3,4 病害虫防除所)

防除のポイント

- 1) 初発生を見逃さないよう、葉裏や葉柄、果梗、果蕾および株元などを丁寧に観察し、発生を認めたら早期に薬剤防除を実施し、**葉裏や下葉、株元等にも薬液がよくかかるよう丁寧に散布**することが特に重要です。
- 2) 古い下葉を除去した後や、発病株または罹病葉や葉柄、果梗、果実などを除去してから薬剤散布を行います。
- 3) ミツバチや天敵を使用する場合は、薬剤の影響についてメーカーや関係機関の指導を受けるなど注意してください。
- 4) **連続して薬剤を使用すると、抵抗性や耐性菌の出現しやすい傾向がありますので、分類の異なる薬剤でローテーション散布してください。**
- 5) ハウス外張り被覆後には硫黄粒剤のくん煙処理が可能です。その際は専用の電気加熱式くん煙器を利用してください。



表1 イチゴ うどんこ病の主な防除薬剤

(令和6年10月8日現在)

薬剤名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	ミツバチ※	分類
アフエットフロアブル	2,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	1 日	7
ジーファイン水和剤	750~1,000 倍	収穫前日まで / —	○	M01 と NC
トリフミン水和剤	3,000~5,000 倍	収穫前日まで / 5 回以内	○	3
パンチョ T F 顆粒水和剤	2,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	○	3 と U06
フルピカフロアブル	2,000~3,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	1 日	9
モレスタン水和剤	3,000~4,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	3 日	M10

注1) 各表のミツバチ※は、ミツバチへの影響の目安を茨城県病害虫防除指針(令和6年版)より抜粋しました。○は薬液が乾けば影響なし、—は不明、その他は影響日数を記載しましたが、天候、施設内の環境条件により日数が前後することがあり、注意が必要です。

注2) 分類欄には、FRAC コードを記載しました。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

効果高 ※

表2 イチゴ 炭疽病の主な防除薬剤

(令和6年10月8日現在)

薬剤名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	ミツバチ※	分類
ジマンダイセン水和剤	600 倍	仮植栽培期(収穫7日前まで) / 6回以内	○	M03
アントラコール顆粒水和剤	500 倍	仮植栽培期 / 6回以内	1 日	M03
セイビアーフロアブル20	1,000 倍	収穫前日まで / 3回以内	○	12
デランフロアブル	1,000 倍	育苗期 / 2回以内	○	M09
ベルコートフロアブル	1,000 倍	育苗期(定植前) / 5回以内	○	M07
オーソサイド水和剤80	800 倍	収穫開始14日前まで / 5回以内	1 日	M04
キノンドーフロアブル	500~800 倍	育苗期 / 3回以内	—	M01

※ 農業総合センター園芸研究所 平成21年度病害虫研究成果 「イチゴ炭疽病に対する防除効果と効果の持続期間」より

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は J A 全農いばらきホームページでもご覧になれます。